

# 〔湿原・干潟の分類例①〕 湖沼湿原調査(国土地理院)

湿地の定義	湿地は、常に水を含み、土地が軟弱で湿地性の植物が生育している土地をいう。 〔出典〕5万分の1地形図図式の定義(国土地理院、平成14年)
-------	--

## 湖沼湿原調査で対象とする湿地の区分について ※網掛して赤線で囲った部分

区分	左記に含まれる事項
都市集落及び道路・鉄道等	居住地等(市街地、集落)、公共施設、学校、工場、油槽所、発電所等、都市公園、空き地等、道路(1車線以上)、鉄道
田	田
畑地・果樹園等	畑地、果樹園等、牧草地、温室畜舎 等
森林	針葉樹林、広葉樹林、混交樹林、竹林、はい松林、しの地
ゴルフ場、大規模リゾート施設等	ゴルフ場、スキー場等
荒地等	荒地、河川敷、裸地、浜、砂礫地
河川、湖沼	河川、湖沼、沼、池
湿地	湿地
その他	飛行場、自衛隊演習場、霊園墓地 等

→全国380湿地  
面積合計82,099ha

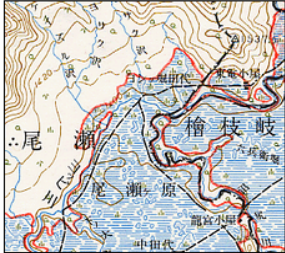
## ＜参考＞ 湖沼湿原調査における湿地面積の算出方法 [出典]湖沼湿原調査の概要(国土地理院WEBサイト)

### (1) 明治・大正時代の古い地図上で湿地記号の範囲を調べます。



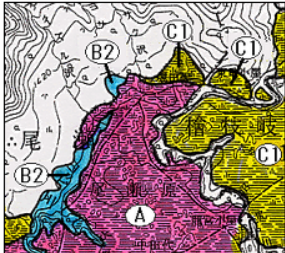
- ・この地図は、大正元年測図の日光15号5万分の1地形図「藤原」の一部です。
- ・この地図には、尾瀬ヶ原の湿地の一部が含まれており、黒の途切れ途切れの平行線で描かれている部分が湿地です。作業では湿地記号の周囲を線で囲みます。

### (2) 最近作成の新しい地図上で湿地記号の範囲を調べます。



- ・この地図は、平成3年修正の日光15号5万分の1地形図「藤原」の一部で、(1)の地図と同じ範囲です。
- ・この地図上で(1)の作業と同様に尾瀬ヶ原の湿地の周囲を線で囲んでいます。

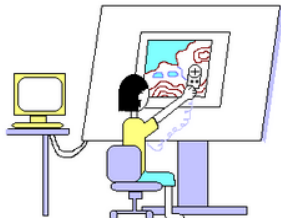
### (3) (1)の図と(2)の図の湿地範囲を示す線から湿地面積の変化を調べます。



- ・この地図は、(2)の地図に(1)の図の湿地の範囲を書き写したものです。
- ・湿地面積の増加した部分、減少した部分、変化しなかった部分に分かれた地図になります。この変化の状態を「湿地の分類基準」で区分して着色します。ここでは、湿地面積が増えた部分を黄色(分類記号:C1)、減った部分を青色(分類記号:B2)、変化

### (4) 湿地の位置と面積を計測します。

座標読み取り装置(デジタイザ)を使用して、(3)の作業で区分した地図上の湿地の位置や面積を測



# 〔湿原・干潟の分類例①〕 湖沼湿原調査(国土地理院)

参考資料2-1

## ＜参考＞ 湖沼湿原調査における湿地の分類基準 [出典]湖沼湿原調査の概要(国土地理院WEBサイト)

湖沼湿原調査は5万分の1地形図を使用して、明治・大正期と現在の湿地の分布状況を比較して、変化無く「残存」している部分、面積が「減少」した部分、面積が「増加」した部分に分け、更に変化した部分についてはその原因別に、「減少」を2区分、「増加」を4区分しています。

以下の表には、以上の方法により区分した湿地変化の分類の記号、分類の略称、分類の基準を表示しています。なお、これらの「記号」「略称」は、調査結果の表やグラフにしばしば使用されています。

記号	分類の略称	湿地変化の分類基準
A	残存	明治・大正時代及び現在の地形図のいずれにも湿地記号があるもの
B1	減少(開発)	明治・大正時代の地図に湿地記号の記載があるが、現在の地形図に記載がないもので、宅地化や農耕地化、その他の人為的行為により湿地が減少したもの
B2	減少(自然減)	土砂流入等の自然現象により湿地が減少したもの
C1	増加(後に発見)	明治・大正時代の地図に湿地記号の記載がないが、現在の地形図に記載されているもので、山間地等で明治・大正時代には確認できなかったが、後に航空測量などの測量技術が進歩し新たに確認されたもの
C2	増加(水位低下)	明治・大正時代の地図に湿地記号の記載がないが、現在の地形図に記載されているもので、土砂の流入等により湖沼・河川の水位が低下し、湿地になったもの
C3	増加(水位上昇)	明治・大正時代の地図に湿地記号の記載がないが、現在の地形図に記載されているもので、ダムや河川改修により水位が上昇し湿地となったもの
C4	増加(休耕田)	明治・大正時代の地図に湿地記号の記載がないが、現在の地形図に記載されているもので、水田が減反等で休耕田となり湿地化したもの
Z	(略称なし)	周囲を湿地に囲まれた地域で湿地以外のもの(例:池、丘陵など)

## 第5回自然環境保全基礎調査 湿地調査におけるタイプ分類

参考資料2-2

<b>湿地の定義</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水分が飽和状態に達しているか、あるいはこれに近い土壤に成立した植生地</li> <li>・常時あるいは定期的(年に1度以上)に冠水する植生地及びこれと一体となった開水面、自然裸地</li> <li>・常時湛水している水域(深さ6m以浅)及びその周辺の植生地のいずれかの特性を持つ土地のうち、             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 陸域に位置すること</li> <li>2. 面積が原則として1ha以上であること</li> <li>3. 原則として自然に成立したものであること</li> </ol>             の3条件をすべて満たすもの              [出典]第5回自然環境保全基礎調査要綱 湿地調査(環境庁、平成7年)           </li> </ul>
<b>調査対象の 湿地面積</b>	国内2,196湿地 約275,105ha

自然/人工の別	位置	タイプ	植生図の凡例(例)	第5回自然環境保全基礎調査の結果			
				対象湿地数	面積(ha)	全調査面積に占める比率(%)	
自然湿地	内陸	湿原	高層湿原	ツルコケモモ-ミズゴケクラス	212	47,728.17	16.6%
			中間湿原	ヌマガヤオーダー	311	32,753.42	0.9%
			低層湿原	ヨシクラス、ヨシ群落	407	105,039.21	22.2%
			(上記の3タイプに分類されていない湿原)		48	1,234.18	0.5%
		陸域性湿地	湧水湿地	※湿原と同様	141	20,729.30	0.2%
			雪田草原	雪田草原	101	3,595.50	1.0%
			沼沢地	ヨシクラス、ヨシ群落	162	23,152.67	2.0%
			河畔	ツルヨシ群落、ヨシ群落、オギ群落、ホツスガヤ群落、河川敷砂礫地植生、河原荒地草地、河辺ヤナギ低木群落	372	57,583.51	13.2%
			湿地林	ハンノキ林	150	62,245.44	0.4%
			淡水湖沼	ウキクサクラス・ヒルムシロクラス、水生植物群落、浮葉・沈水植物群落	440	131,432.65	29.5%
	海岸	沿岸性湿地	塩性湿地	塩性湿地植生、アマモクラス、ヒトモトスキ群落、ハマジンチョウ群落、シオクグ群落、ママツナーハマサジ群落	51	47,931.21	2.9%
			マングローブ林	マングローブ林	23	2,673.40	0.8%
			河口域	河口域	ヨシクラス、ヨシ群落	5	209.60
		河口干潟有			86	35,993.80	3.8%
		河口干潟無			22	6,857.44	0.1%
		汽水湖沼	汽水湖沼	ウキクサクラス・ヒルムシロクラス、水生植物群落	8	8,299.88	0.1%
			潟湖干潟有	浮葉・沈水植物群落	27	59,514.50	3.8%
			潟湖干潟無		29	8,085.94	2.9%
		人工湿地	—	人工湿地	休耕田、放棄水田	いずれも、野生生物の生息・生育地として重要なもののみ抽出。	87
水田	38				9,576.21		0.8%
廃塩田	3				109.20		0.0%
湿性牧野	14				2,064.60		0.0%
ため池	244				2,011.50		0.6%
その他	52				5,029.88		0.4%
値未記入	—		4	6.75	0.4%		
<b>合計</b>				<b>3,037</b>	<b>675,284.88</b>		

※調査結果の面積合計には上記以外に「値未記入」の湿地が4か所計6.8haを含む。

※上記面積はタイプ別の面積であり、1箇所の湿地に複数のタイプの湿地が存在しているケースが含まれるため、合計面積が国内の湿地面積(約275,105ha)と異なる。

[出典]第5回自然環境保全基礎調査(湿地調査), 環境省, 1993年

**a: 湿原**

泥炭地に形成された草原。草原内に点在する面積1ha以下の小規模な水面(池塘と呼ばれるもの)はこれらに含めるものとする。地下水面と泥炭表面の高さとの相対的關係により高層湿原、中層湿原、低層湿原に区分する。

**b: 湧水水湿地**

谷地形の低いところにできた湿った土地。泥炭層の形成が見られない。地下水、ことに湧水に満たされ成立する。谷底平野、段丘崖直下、谷頭・沢頭と呼ばれる部分などに多い。特にこのタイプは1ha以下のものであっても動植物の生息地として重要なものが多いので調査漏れのないよう留意すること。

**c: 雪田草原**

山稜、山地上部等で、雪溪、雪田、あるいは万年雪などから水の供給を受けて形成された草原。草原内に点在する面積1ha以下の小規模な水面(池塘と呼ばれるもの)はこれに含めるものとする。

**d: 沼沢地**

植生と開水面が混在して存在する。泥炭層が形成されていないもの、あるいは形成されているかいないか明かでないものをこのタイプとする。

**e: 河畔**

植生、水生植物群落(原則として1ha以上)が存在する河岸及びこれと接する河川の水面区域について中州等の自然裸地を含んで抽出する。河岸は定期的に洪水の影響を受け類高さまでを抽出する。河川のすべてを抽出するのではないので注意すること。

**f: 湿地林**

常時あるいは季節的に湛水する土地に成立している森林。eに接して成立することが多い。

**g: 淡水湖沼**

最大水深が6mに満たない天然湖沼は全て抽出する。最大水深が6mを越える天然湖沼にあつては「1ha以上の湖沼、水生植物群落が存在する湖岸及びこれと接する水面のうち水深6m以浅の区減」を抽出する。

**h: 塩性湿地**

塩性草本植物群落の成立している土地。河口より上流部に位置するものを抽出する。

**i: マングローブ林**

河口より上流部に位置するものを抽出する。

**j: 河口域**

eのうち河口部を含むもの。区域内の河口干潟の有無によってさらに区分する。

**k: 汽水湖沼**

抽出の方法は「g. 淡水湖沼」と同様。区域内の干潟(湖沼干潟)の有無によってさらに区分する。

**l: 休耕田、放棄水田**

休耕田、放棄水田の全てではなく、動植物の生息地として重要なもののみ抽出すること。

**m: 水田**

水田の全てではなく、鳥類、昆虫類等の生息地として重要なもののみ抽出すること。干拓地は特に鳥類の生息地として重要なもののみ抽出すること。

**n: 廢塩田**

廢塩田の全てではなく、動植物の生息・生育地として重要なもののみ抽出すること。特に塩生植物の生育地となっているものに注意すること。

**o: 湿性牧野**

全てではなく、動植物の生息・生育地として重要なもののみ抽出すること。

**p: ため池**

全てではなく、動植物の生息・生育地として重要なもののみ抽出すること。

**q: その他**

a-pに該当しないものの、対象条件に合致するもの。調査票記載にあたっては、簡潔に記載のこと。

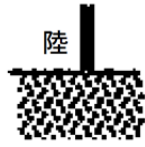

〔湿地・干潟の分類例③〕  
ラムサール条約

湿地の定義		湿地とは、天然のものであるか人工のものであるか、永続的なものであるか一時的なものであるかを問わず、更には水が滞っているか流れているか、淡水であるか汽水であるか塩水であるかを問わず、沼沢地、湿原、泥炭地、又は水域をいい、低潮時における水深が6mを超えない海域を含む。水辺及び沿岸の地帯であって湿地に隣接するもの並びに島又は低潮時における水深が6mを超える海域であって湿地に囲まれている地域。	
湿地の分類	海洋沿岸域湿地	A	低潮時に6メートルより浅い永久的な浅海域。湾や海峡を含む。
		B	海洋の潮下帯域。海藻や海草の藻場、熱帯性海洋草原を含む。
		C	サンゴ礁。
		D	海域の岩礁。沖合の岩礁性島、海崖を含む。
		E	砂、礫、中礫海岸。砂州、砂嘴、砂礫性島、砂丘系を含む。
		F	河口域。河口の永久的な水域とデルタの河口域。
		G	潮間帯の泥質、砂質、塩性干潟。
		H	潮間帯湿地。塩性湿地、塩水草原、塩性沼沢地、塩性高層湿原、潮汐汽水沼沢地、干潮淡水沼沢地を含む。
		I	潮間帯森林湿地。マングローブ林、ニッパヤシ湿地林、潮汐淡水湿地林を含む。
		J	沿岸域汽水／塩水礁湖。淡水デルタ礁湖を含む。
		K	沿岸域淡水潟。三角州の淡水潟を含む。
		Zk (a)	海洋沿岸域地下カルスト及び洞窟性水系。
		内陸湿地	L
	M		永久的河川、溪流、小河川。滝を含む。
	N		季節的、断続的、不定期な河川、溪流小河川。
	O		永久的な淡水湖沼(8haより大きい)。大きな三日月湖を含む。
	P		季節的、断続的淡水湖沼(8haより大きい)。氾濫源の湖沼を含む。
	Q		永久的塩水、汽水、アルカリ性湖沼。
	R		季節的、断続的、塩水、汽水、アルカリ性湖沼と平陸。
	Sp		永久的塩水、汽水、アルカリ性沼沢地、水たまり
	Ss		季節的、断続的塩水、汽水、アルカリ性湿原、水たまり。
	Tp		永久的淡水沼沢地・水たまり。沼(8ha未満)、少なくとも成長期のほとんどの間水に浸かった抽水植生のある無機質土壌上の沼沢地や湿地林
	Ts		季節的、断続的淡水沼沢地・水たまり。無機質土壌上にある沼地、ポットホール、季節的に冠水する草原、ヨシ沼沢地。
	U		樹林のない泥炭地。灌木のある、または開けた高層湿原、湿地林、低層湿原。
	Va		高山湿地。高山草原、雪解け水による一時的な水域を含む。
	Vt		ツンドラ湿地。ツンドラ水たまり、雪解け水による一時的な水域を含む。
	W		灌木の優占する湿原。無機質土壌上の、低木湿地林、淡水沼沢地林、低木の優占する淡水沼沢地、低木カール、ハンノキ群落。
	Xf		淡水樹木優占湿原。無機質土壌上の、淡水沼沢地、季節的に冠水する森林、森林性沼沢地を含む。
	Xp		森林性泥炭地。泥炭沼沢地林。
	Y	淡水泉。オアシス。	
	Zg	地熱性湿地。	
	Zk (b)	内陸の地下カルストと洞窟性水系。	
	人工湿地	1	水産養殖池(例 魚類、エビ)
2		湖沼。一般的に8ha以下の農地用ため池、牧畜用ため池、小規模な貯水池。	
3		灌漑地。灌漑用水路、水田を含む。	
4		季節的に冠水する農地(集約的に管理もしくは放牧されている牧草地もしくは牧場で、水を引いてあるもの。)	
5		製塩場。塩田、塩分を含む泉等。	
6		貯水場。貯水池、堰、ダム、人工湖(ふつうは8haを超えるもの)。	
7		採掘現場。砂利採掘坑、レンガ用の土採掘坑、粘土採掘坑。土取場の採掘坑、採鉱場の水たまり。	
8		廃水処理区域。下水利用農場、沈殿池、酸化池等。	
9		運河、排水路、水路。	
Zk (c)		人工のカルスト及び洞窟の水系。	

湿原  
 干潟

〔湿地・干潟の分類例④〕  
HGM(水文地形学モデル)アプローチによる湿地、干潟の分類

	アメリカ	湿地	分類の視点	分類
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の供給様式</li> <li>・傾斜</li> <li>・氾濫源および源流域の位置と大きさ</li> <li>・塩分濃度</li> <li>・景観的要素</li> </ul>	窪地 湖周辺 感潮域 傾斜地 河岸 無機土壌平地 有機土壌平地

	国立環境研究所	干潟	分類の視点	分類	主な湿地の例〔調査地〕	湿地の形状(イメージ)
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形的特徴(前浜、潟湖、河口域)</li> <li>・水の供給様式(河川水、海水)</li> </ul>	前浜干潟 前浜干潟+河川 潟湖干潟 潟湖干潟+河川 河口域干潟	富津干潟(東京湾) ・春国岱(根室湾) ・西三番瀬(東京湾) ・藤前干潟(伊勢湾) 谷津干潟(東京湾) 風蓮湖(北海道) 琵琶瀬川河口(北海道)	    

〔出典〕「環境儀」No.15(国立科学研究所), 2005年